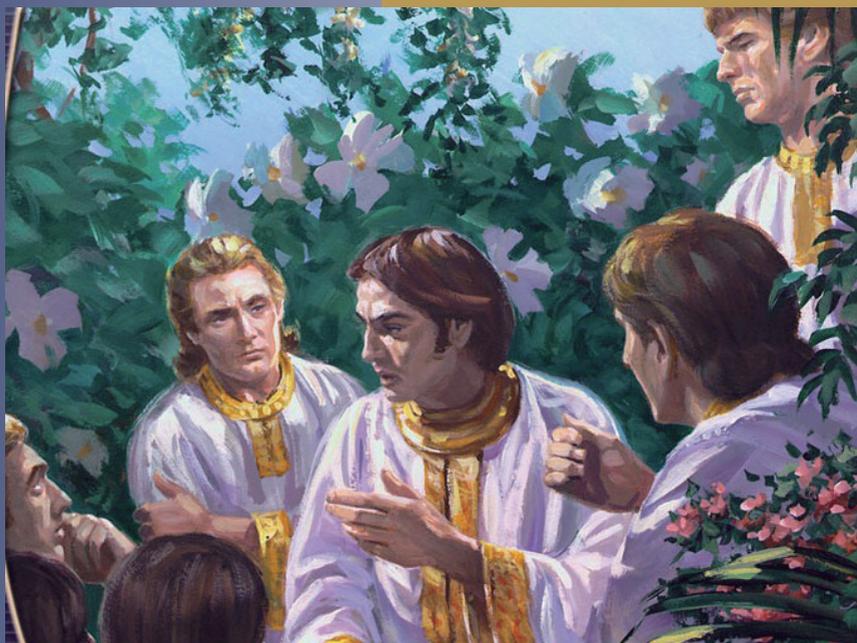


The Snares of Satan

サタンのわな

—残りの教会に対する戦略

Revival Booklet Series No.11



リバイバルシリーズ No.1 1



SUNRISE MINISTRY

サタンの会議

(牧師への勧告 p472-475)

牧師への勧告引用文を最初に挙げて、順次説明は【注】とした。引用文中に数字を入れたのは、注解を便利にするためである。

「神の民が最後の危機に近づく時、サタンは神の民の信仰を打倒する最も成功する計画のために重大な会議を開く。彼は①一般諸教会はすでに彼の欺瞞的な力によって眠らされているのを知っている。ここちよい詭弁と偽りの奇跡によって、サタンは彼らを自分のコントロールのもとに押さえ続けておくことができる。だから、特にキリストの再臨を待ち、神の戒めの全てを守るように努力している者たちのために、わなを仕掛けるようにサタンは自分の使いたちに指示するのである。」

【注】

① 第一天使の使命を拒んだ諸教会は「バビロン」となった。「(プロテスタント諸教会)は急速に墮落してしまった。しかし、第二天使の使命は、1844年に完全な成就を見たのではなかった。その時、教会は、再臨使命の光を拒否したために、道徳的墮落を経験したのであったが、しかしその墮落は、全面的なものではなかった。諸教会は現代に対する特別な真理を拒否しつづけてきたために、ますますひどく墮落してしまった…。教会と世俗との結合がキリスト教国全体において完全に行なわれるときに、初めてバビロンの墮落は完全なものとなる。この変化は徐々に行なわれる。黙示録 14:8の全面的成就是、まだ将来のことである。バビロンを構成する諸教会は、霊的暗黒と神からの離反に陥っているにもかかわらず、その中にはまだ、真のキリスト者が数多くいる。この時代のための特別な使命をまだ悟っていない人々が多くいる」大争闘下 92、260、初代文集 443。

「プロテスタント教会は大いなる暗黒の中にある」大争闘下 321。

たとい彼らが引きつける暖かさ、「クリスチャン的交わりの雰囲気」、聖霊の力を装っても、又、興奮的リバイバルを見せても、主が去られた聖所の第一の部屋に向かって彼らは祈っているのである。至聖所におられるイエス、三天使の使命を拒んでいる故に、彼らの力と霊の雰囲気は別な霊からきているものである。(大争闘下 191)

「サタンは、諸教会を一つにまとめて全部占領してしまった。」(初代文集 443)

ビリー・グラハム、オーラル・ロバーツ、(教会成長の) マック・ギャラン、ピーター・ワグナー、ジョン・ウィバー、ジェリー・ファーレル、チャー・ヨンギ、セレブレーション礼拝、メガチャーチ運動の扇動者-ロバート・シューラー、ビル・ハイベルズ、リック・ワーレン等々のしていることは偽リバイバルであることを認識しなければならない。

かつて、あれほど全世界を賑わせた世紀の大伝道者ビリー・グラハムは、今ではすっかり法王の操り人形になっている。救われるためにはキリストを知らなくても、だれでも心に神を持っている者は救われるとローマ法王と語ることを同じくしているのである。法王こそ世界の羊飼いであると言っている。

「約六千年近くも続けられてきたキリストとサタンとの間の争闘は、まもなく終わる。そこでサタンは、キリストが人間のためにしておられる働きを妨げる努力を倍加し、魂を彼のわなの中に捕えておこうとする。救い主の仲保のお働きが終わり、もはや罪のための犠牲がなくなってしまうその時まで、人々を悔い改めさせず、暗黒の中に閉じこめておくことが、サタンのめざすところである。

サタンの権力に抵抗しようとする特別の努力もなく、教会と世の中に無関心の状態がみなぎっていれば、サタンは別に気にとめないの



である」大争闘下 260。

1844 年以来、バビロン（プロテスタント諸教会）は倒れ続けていることを忘れてはならない。（大争闘下 92）

もちろん、バビロンの母、ローマ・カトリック教会の中にも真のキリスト者たちが多くいることも覚えていなければならない。やがて、黙示録 18 章の大いなる叫びで、多くの神の民が真理の側に立つのである。（大争闘下 321、190、84）

「大欺瞞者は言う、『我々はエホバの①安息日に人々の注目を集めようとしている人を警戒しなければならない。彼らは②神の律法の主張するところを多くの人々が見るように導くであろう。そして、真の安息日を啓示する同じ光が③天の聖所におけるキリストの働きも啓示し、そして最後の人類救済の働きが今もお進んでいることを示す。その働きが終わってしまうまで人々の心を暗黒に閉じ込めておくのだ。そうして我々は世を確保し、教会をも確保するであろう』」

【注】

サタンのターゲットは安息日、神の律法、天の聖所、最後の贖いを教える SDA である。それに、イエスのあかし＝預言の霊を持つ民である。外部から、内部から幾度も攻撃されて、今やクライマックスに達しようとしている。

古代イスラエルは外部から絶えず攻撃された。霊的イスラエルもそうであった。典型的なのは 1950 年代に福音派のバーンハウス博士とマーチン博士による攻撃であった。セブンスデー・アドベンチストは、モルモンやエホバの証人のようにセクト（分派）と言われることを恐れて、我々の教会は妥協した。元レビューアンドヘラルドの編集長、ケネス・ウッドは今日の状況を作り出したのは 1957 年の「教理に対する質問」でわが教会が妥



バーンハウス博士



マーチン博士

協したことだと指摘している。

しかし、預言者は「我々は外部からよりももっと内部からのものを恐れる」LDE 156 と言っている。

かの有名なケロッグ医師、キャンライト、バーレンジャー、フレッチャー等々も SDA の聖所の教理と証の書を攻撃した。

1982 年に、エレン・G・ホワイトが書いた証の書に対して、ワルター・レイという SDA の牧師が、「白い嘘 (White lie- ホワイト ライ)」という本を出版して公然と攻撃を加えたことは、アメリカでマスコミでも取り上げられた。

聖所の教理に関してもしかりである。1970 年代、オーストラリア、アボンデール大学の神学部長であり、後にパシフィックユニオンカレッジの神学部長



攻撃



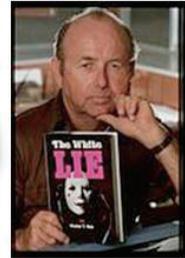
キャンライト



バーレンジャー



デスモンド・フォード



ワルター・レイ

になった Dr. フォードはテレビ、雑誌に公然と SDA 再臨信仰の基礎である聖所の教理を攻撃した。1844 年にではなく、紀元 31 年にイエス・キリストは至聖所に入られたのであるとしてセンセーションを起こした。

安息日の教理に関して、1960年代にオーストラリアのプリンスミードが攻撃した。かつてはジョーンズ、ワゴナーのように“聖所の覚醒運動”で教会の覚醒のために神に用いられた器であったが、後に背教した。

「安息日は魂の運命を決定する大問題である。我々は①我々が造った安息日を高めなければならない。我々は②世（世俗）と教会員と両方によってそれを受け入れるようにしてきた。今や教会が世と結合してその支持を得るように導かなければならない。我々は彼ら（世）が真理に対して目を閉ざすために、しるしと不思議によって働かねばならない。そして理性と神を恐れる思いをないがしろにして、③習慣と伝統に従うように導かねばならない。」

【注】

①ローマ・カトリックについて証の書で何と言われているだろうか。大争闘上44に次のように書いてある：

「この異教とキリスト教の妥協が、神に反抗して立ち上がると預言された『不法の者』を出現させることになった。偽りの宗教のあの巨大な組織は、サタンの権力が生んだ一大傑作であって、自分の意のままにこの地上を支配しようとする彼の努力の記念碑である。……そして、このようにしてキリストを拒否したことによって、教会はサタンの代表者であるローマの司教に忠誠をつくすに至った。」

彼らは彼らの安息日 - 日曜日は教会の權威の印と宣言している。

「日曜日はカトリックの子供である。」(RH4-25,1893)

②すでに全世界、日曜に休むことは習慣となり、伝統となっている。何千年の間の土台を人々はそう簡単には変えないであろう。クリスマス、イースター、日曜日休日などは世界中にいつの間にか広がっていった。

③習慣と伝統がどれほど真理を阻んできたかはイエスの時代も今も変わらない

「私は①評判の良い牧師たちに影響を与えて、神の戒めから、彼らの聴衆の注目をそらすのだ。聖書が完全な自由の律法と宣告していることは、束縛としてみなされるであろう。人々は牧師たちの聖書の説明を受け入れ、自分自身では探り調べないであろう。だから、牧師たちを通して働くことにより、私は思いのままに、人々をあやつることができるのだ。」

【注】

①評判の良い牧師たちを通して働く。(例えば Dr. フォード)

各時代においてそうであったように、最後の時代の残りの民にも同じ様にするであろう。

大争闘下巻 361 に「サタンはいつも、神の代わりに人間に注意を向けさせようと努力している。彼は、人々が自分で聖書を探って自分の義務を学ばないで、監督や牧師や神学者を案内者とするように導く。

そうする時に、サタンはこれらの指導者たちの心を支配することによって、大衆を意のままに感化することができるのである」と書いてある。

「ユダヤ人が民族として滅びたのは、支配者、祭司、長老たちによって聖書の真理から引き離されたためであった」牧師への勧告 109。

「しかし、我々の第一の関心は、この安息日遵守者のセクト（グループ）を沈黙させることだ。我々は彼らに対して一般の憤りを起こさねばならない。①偉い人たち、世的に賢い人たちを我々の側に雇い入れ、我々の目的を遂行するために権威を持つ人々をそそのかすのだ。そして、私が立てた安息日を法律をもって苛酷に強制するのだ。それを無視する者は、町や村から追放し、飢餓

や貧窮の苦しみに合わせるのだ。②いったん我々が権威を持つようになると、神への忠誠からそれない者たちにどうするかを示そう。我々は、③ローマ教会を導いて、法令に従うことを拒んだ者たちに投獄、拷問、死を課した。今度はプロテスタント諸教会と世を我々のこの力の④右腕と調和させることによって、ついには我々の権力に屈しない者たちを根絶する法律をもつことになる。我々の安息日を犯す者に⑤死の刑罰を課す時、現在、戒めを守る者につらなっている多くの者が我々の側に来であろう。」

【注】

①ローマは日本で偉い人たち（エリート）に働くのが方針である。（赤間剛著の「バチカンの秘密」を見よ）

②いったんローマが権力を持つならばどうなるか？

「ローマ教会の計画や運営方式には遠大なものがある。この教会は、再び世界を支配するために、また迫害を復活させるために、またプロテスタントが行なったすべてのことを無効にするために、激しい決定的な戦いの準備として、その感化力を広げ、その勢力を強めようと、あらゆる手段を用いている。カトリック教は至るところに地歩を占めつつある。プロテスタント諸国において、カトリックの教会や礼拝堂が数をましているのを見られよ。米国において、カトリック教の大学や神学校が人気を集め、プロテスタントに広く後援されているのを見られよ。英国における儀式主義の発展や、カトリック教会へ入るために新教から脱落する者が多いことを見られよ。こうした事柄は、福音の純粋な原則を尊ぶすべての者が憂慮しなければならないことである。

プロテスタントは法王制によけいな手出しをし、後援してきた。彼らは、法王教徒自身が見て驚き、理解しかねるような妥協と譲歩をしてきた。人々は法王制の真の性格、またこの教会が支配権を得たとき心配される危険に対して目を閉じている。政治的また宗教的自由に対するこの最も危険な敵の進出に反対するように、人々は目ざめる必要がある」大争闘下 321,322。

「神のみ言葉はこのさし迫った危険について警告を与えてきた。これが顧みられないならば、プロテスタントの世界は、ローマ教会の目的が実際に何であったかを知ったときには、もはや手遅れになってそのわなを逃れることができないであろう。ローマ教会は黙々としてその勢力をのぼしつつある。その教えは議会に、教会に、また人々の心に影響を及ぼしている。法王制は堂々たる大建造物を築き上げているが、その奥まった部屋では昔の迫害がくり返されるであろう。自分が手を下す時が来たら自分自身の目的を押し進めるために、教会は、ひそかに、そしてあやしまれないように、勢力をのぼしつつある。この教会が何よりも望むものは、有利な立場である。そしてこれはすでに教会に与えられつつある。われわれはローマ教会の真の目的が何であるかをまもなく見、かつ感じるであろう。神のみ言葉を信じ、それに従う者はだれでも、そのことによって非難と迫害を受けるであろう」大争闘下 340。

③プロテスタント+世の政権+カトリックの結合は今日我々の目の前でかつてないほど現実的に成就しているではないか。

④サタンの右腕であるカトリックにプロテスタントと世俗を結合させる策略は成功していないだろうか。今日カトリックの愛と平和工作の甘言にだまされないようにしよう。プロテスタントの最後の砦である SDA はそのわなに気が付いているだろうか？

⑤多くの SDA はいつ敵の側に加わるか？

「あらしが迫って来るとき、第三天使の使命を信じると公言しているが、真理に従うことによって清められていなかった多くの者が、その信仰を棄てて反対の側に加わる。彼らは、世俗と結合し、その精神を抱くことによって、ほとんど同じ見方で物事を見るようになっている。そして、試練が来ると、彼らはすぐに、安易で一般うけのする側を選ぶのである。かつては真理を喜んだところの、才能ある雄弁な人々は、その力を用いて他の人々を欺き迷わす。彼らは、以前の兄弟たちにとって、最も苦い敵となる。安息日遵守者が法廷に呼び出されて、信仰について答えるときに、これらの背教者たちは、サタンの最も強力な手先となって、彼らの中傷し非難する。そして、偽りの報告やあてこすりによって、彼らに対する権力者たちの怒りをかき立てる」大争闘下 378。

過去の迫害が繰り返される。(大争闘下巻 p336、337、339、341)

大争闘下 397「どんなに生々しく描写しても、この試練の激しさには、とうてい及ばない。」事実を直視せよ！

エレミヤ書 6:14「彼らは手軽にわたしの民の傷をいやし、平安がないのに『平安、平安』と言っている。」同上 6:17「わたしはあなたがたの上に見張びとを立て、『ラッパの音に気をつけよ』と言った。しかし彼らは答えて、『われわれは気をつけることはしない』と言った。」

ノアの時代もエルサレム滅亡の時もそうであった。事実を直視して恐れるのではない。何故なら、「たとえわたしは死の陰の谷を歩むとも、わざわいを恐れません。あなたがわたしと共におられるからです。」(詩篇 23:4)

「あなたの受けようとする苦しみを恐れてはならない。」(黙示録 2:10)

イエスの約束がある。

「これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」(ヨハネ 16:33)

事実を直視しない人は、どうなる？

「われわれは平安を望んだが、良い事はこなかった。いやされる時を望んだが、かえって恐怖が来た。」(エレミヤ 14:19)

「刈入れの時は過ぎ、夏もはや終わった、しかしわれわれはまだ救われない。」(エレミヤ 8:20)

「わが民の娘の傷によって、わが心は痛む。わたしは嘆き、うろたえる。」(同 8:21)

「しかし、これほど極端なところまで持って行く前に、我々はあらゆる知恵をつくし、巧妙に、真の安息日を尊ぶ人たちをだまし、わなを設けなければならない。(何をしようとするのだろうか?)
我々は①世俗的なものと欲情と高慢によってキリストから多く

の者を引き離すことができる。彼らは真理を信じているから②安全だと思うだろう。しかし、③食欲の耽溺、低い情欲が判断を混乱させ、察知力を破壊し、彼らに墮落をもたらすであろう。」

【注】

①多くの者をキリストから引き離すのは何か？

世俗的なもの、欲情、高慢

②よく救いの確かさを求めて、偽りの安心感、保証で満足する人がいる。真の信仰による義は自己犠牲、自己否定、服従から我々を解放するか？大争闘下巻 27 章を熟読されたし！

③ 5 T 160 「ヨルダンを渡る直前にイスラエルの民を陥れたのと全く同じわなが我々の前に置かれている。我々は彼らの歴史を繰り返しているのである。」

1 T 609 「現代イスラエルは古代の神の民が神を忘れ、偶像礼拝に導かれたことよりも更に大きな危険がある。」

古代イスラエルが乳と蜜の流れる約束の地を目の前にして、シットム平野でどんな背教に陥ったかについて人類のあけぼの下巻 66 に次のように書かれている：

「こうした環境は、イスラエル人に悪影響を及ぼした。彼らの心は、絶えずほのめかされた卑しい思いになれてきた。彼らは、安楽と怠惰な生活によって風紀をみだした。そして、ほとんど無意識のうちに神から離れ、やすやすと誘惑に負ける状態に陥っていた。

ヨルダン河畔に宿営していた間に、モーセはカナン占領の準備を進めた。この偉大な指導者は、この務めに没頭していた。しかし、民にとってこの不安と期待の時期はどうにも耐えがたかった。幾週もたたないうちに、彼らの生活は徳と忠誠から恐ろしいまでに離れてしまっていた。

最初、イスラエル人とこれらの異教徒との間には、ほとんど交渉が

なかったのであるが、やがて、ミデアンの女たちがひそかに宿営に出入りするようになった。彼女たちの出現に警戒の色をみせるものもなかった。また、彼らのすることが、目立たないように行なわれたために、モーセの注意もこれに向けられなかった。この女たちがヘブル人と交わる目的は、彼らをだまして神の律法に違反させ、異教の儀式と習慣に注意を引き、偶像礼拝に誘うことであった。こうした動機は、友愛という名目の下に隠されていたため、民の守護に当たる者たちでさえそれに気づかなかった。」

「さあ、行け！①土地や金を持っている人たちが、この世の生活でおぼれるようにさせなさい。世を最も魅力的な光で彼らの前に提示するなら、この地上に彼らの宝を積むように、地上の事柄に彼らの愛情を据えるようになるであろう。我々は神の働きにたずさわっている者たちが、②我々に反対するために使用する資金を確保できないように、我々の最善を尽くさねばならない。金を我々の側に保持しておけ。彼らが資金を得れば得るほど、我々の側の者たちを取ることによって、我々の王国に打撃を与えるであろう。③キリストの王国の建設、我々の憎む、真理の宣布よりも金のわずらいに気を配らせよ。そうすれば彼らの感化を恐れる必要はない。何故なら、全ての利己的な、貪欲な人は、皆、我々の配下に陥るであろう。そして、ついには神の民から離れてしまうであろう。」

【注】

①初代文集の「ふるい」の前の章は「貪欲」である。読まれたし。サタンのわなである！借金をらい病のように恐れよ！クレジットカードに気をつけよ！

②神から与えられる金銭は神の真理、サタンが憎む、悪魔の陰謀を暴露し、三天使の使命、現代の真理の宣布に使われるべきである。何故、現代ローマは怒らないのか？何故、迫害は来ないのか？ローマ、プロテスタント、世の賞賛

を求めて、はっきり言えないのは何故だろう？いつまで、我々は「キリスト教道徳」を唱えているのか？法王教と金メダル交換をしたり、福音派キリスト教会から仲間として認められたりすることを、喜んでいる時であろうか？

民数記 23：9-ひとり離れて住む民、Ⅱコリント 6：14- つり合わないくびきを共にするな。

③ダボンポート事件による教会の膨大な損失は我々に何を教えるか？1981年7月25日の“ロスアンゼルスタイムズ”にも、「憂慮される大規模な教会資金損失」として一般にも公開された。SDA 事業団の倒産の増加、SDA 支部組織であるアドベンチスト・ヘルス・システム（医療事業統合機関）の赤字のエスカレート、世界総会の証券・株への危険な、莫大な投資もあると言う。これらは何を意味するだろうか？

「①信心深い様子をしながら、力をもっていない者たちを通して、放っておけば我々に害を与える多くの者を獲得することができる。神よりも楽しみを愛する者たちは我々の最も有力な助手である。②才能があって知的なクラスの人々は、我々のわなに他の人々を引き寄せるおとりの役割を果たすであろう。多くの者は彼らの影響を恐れない。何故なら、彼らは同じ信仰を告白しているからである。我々は③キリストの要求はかつて信じた時よりは厳格ではないんだ、④世との一致によって、世の人々にもっと大きな感化を及ぼすことになろうという結論に彼らを導くことができるであろう。このように、彼らはキリストから離れることによって、我々の力に⑤抵抗する力を持たなくなるであろう。そして、間もなく⑥以前の彼らの熱心さ、献身をあざわらうようになるであろう。」

【注】

①人類のあけぼの上巻 p 372 「今日でも快樂を愛する心が『信心深い様子』のかけに隠れていることがなんと多いことであろう。」

②知的なクラスの人々＝おとり

大争闘下 248、249 「サタンはしばしば、われわれが、彼の支配下にある人物だとは思えないような人々を用いて、実に巧妙に働きかける。才能や教育がある人々は、神を恐れる心がなくても、これらの特質がそれを補い、神の恵みに浴させるかのように、賞賛され、栄誉を帰せられている。才能と教養は、それ自体、神の賜物である。しかしそれらが、信心の代用にされるならば、そして、魂を神に近づけるかわりに神から引き離すならば、そのときそれらはのろいとなり、わなとなるのである。礼儀正しく見えることや洗練された感じを与えることはみな、何かの意味でキリストに関係するものである、と考えている人が多い。

しかし、これほど大きなまちがいはない。こうした特質は、真の宗教のために強力な影響を及ぼすものであるから、すべてのキリスト者の品性の美点でなければならない。しかし、それらは、神にささげられねばならない。さもないと、それらもまた、悪のための力となってしまう。一般に不道徳と見なされている行為はあえてしないところの、知的で教養があり、礼儀正しい人が多くいるが、このような人々は、サタンの手にある洗練された器にすぎない。彼の狡猾で欺瞞的な影響と模範は、キリストの働きにとって、道理をわきまえない人々よりはるかに危険である。」

「親しき者」詩篇 55:13, 14

大争闘下 363,364 「サタンが人間の影響力を通してとりこを縛りつけようと働く方法は、たくさんある。サタンは、愛情という絹ひもで、多くの人々をキリストの十字架の反対者たちに結びつけることによって、彼らを自分の側に確保する。この愛着が親子の間であろうと、夫婦の間であろうと、社交的なものでであろうと、結果は同じである。真理の反対者たちが良心を支配しようと影響力を及ぼすので、彼らの支配下に捕えられている魂は、義務に関する自分自身の確信に従うだけの勇気や独立心をもっていない。」

・服従を律法主義と思う。愛するならば戒めを守る。

ガラテヤ 5：6 「愛によって働く（行う）信仰だけが尊い。」

ヨハネ 14：15,21,23 「愛するならばその言葉を守る。」

Iヨハネ5:3 「愛するとは戒めを守ること。それはむずかしいものではない。」

④人あ下66「最初、イスラエル人とこれらの異教徒との間には、ほとんど交渉がなかったのであるが、やがて、ミデアンの女たちがひそかに宿営に出入りするようになった。彼女たちの出現に警戒の色をみせるものもなかった。また、彼らのすることが、目だたないように行なわれたために、モーセの注意もこれに向けられなかった。この女たちがヘブル人と交わる目的は、彼らをだまして神の律法に違反させ、異教の儀式と習慣に注意を引き、偶像礼拝に誘うことであった。こうした動機は、友愛という名目の下に隠されていたため、民の守護に当たる者たちでさえそれに気づかなかった。」

⑤ヤコブ4:7「悪魔に立ちむかえ（抵抗しなさい）」

大争闘下378、379「この迫害の時に、主のしもべたちの信仰が試みられる。彼らは、神と神の言葉だけに頼って、忠実に警告を発してきた。神の霊が彼らの心を動かして、彼らに語らせたのである。彼らは、聖なる熱意と神の強い力に刺激されて、主が彼らに与えられた言葉を人々に語る結果などは少しも考えに入れずに、彼らの義務の遂行に取りかかった。彼らは、現世の利益を考えたり、名声や生命を保とうとしたりはしなかった。しかし、反対と非難のあらしが彼らに襲いかかるとき、ある者は、驚きのあまり、『もしわれわれの言葉の結果を予知していたら、われわれは黙っていたであろうに』と叫ぶであろう。彼らは困難に取り囲まれる。サタンは激しい誘惑をもって彼らを攻撃する。彼らが手がけた仕事は、とうてい彼らの能力では成し遂げられないように思われる。彼らは滅亡に脅かされる。彼らを活気づけた熱は去った。しかし彼らは引き返すことができない。その時彼らは、自分たちの全くの無力さを悟り、全能者のもとに逃れて力を求める。彼らは、自分たちが語った言葉が、自分たちの言葉ではなくて、警告せよと命じられた主のものであったことを思い出す。神が彼らの心に真理を入れられた。そして彼らは、それを宣べ伝えざるをえなかったのである。」

「決定的な大打撃を与えるまで、戒めを守る者たちへの努力はたゆまないものでなければならない。我々ほどの集会にでも出席しなければならない。大きな集会では特に我々の働きは大きく傷を受けるから、よほど警戒しなければならない。真理を聞くこと、又、それによって印象を受けることがないように我々のあらゆる誘惑的な術を用いて、魂を妨げなければならない。」

【注】

大争闘下 261 「同じ目的をもってサタンは、人々が神の礼拝のために集まるときにその場に現われるのである。目にこそ見えないが、サタンは礼拝者たちの心を支配するため、いっしょうけんめいに働いている。サタンは、老練な将軍のように、前もって計画をたてる。神の使命者が聖書を調べているのを見ると、どのような使命が人々に語られるかに注意する。そして、その点について彼が欺いている人々に、その使命を聞かせないように、あらゆる巧妙な策略を用いて、事情を支配しようとする。ぜひともその警告を聞かねばならない人々が、何かの重要な商用のために出向かなければならないようにしたり、あるいは、何かほかの方法で、いのちからいのちに至らせるかおりとなるみ言葉を聞くのを妨げるのである。

またサタンは、神のしもべたちが人々の霊的暗黒に心を悩ましているのを見る。そして彼らが、冷淡、不注意、怠惰などの魔力から逃れられるように、神の恵みと力とを熱心に祈り求めているのを聞く。すると彼は、熱心さをもりかえして策動する。すなわち、人々に食欲をほしいままにさせたり、または、何かほかのことで放縦な生活をさせたりして知覚をまひさせ、彼らが最も学ばなければならないことを聞かせないようにしてしまうのである。」

9T156 「食欲をほしいままにすることが、知的な開発と魂の清めに

最も大いなる障害である。・・・肉体的、知的衰弱の最大の原因である。」

「偽りの中に人々をだませるだけの真理を十分混ぜ込んである教理を持つ人々を私の手先として用いる。又、主のご自分の教会に対する警告の使命に関して①疑いを表明する者たち一信じない者たちがいるようにさせる。人々が主の警告を読み、信じると我々は彼らを克服する望みはあまりない。しかし、もし我々がこれらの警告から彼らの関心をそらせることができるなら、我々の力と狡猾さに②無知のままで、ついには、我々の側に彼らを獲得することができるであろう。神はご自分の言葉がやたらに軽視されるのを許されない。もし我々が、魂が一時だまされ、神の憐みから引き戻されるならば、神はついには完全に我々のコントロールにまかされるであろう。」

【注】

①大争闘下 270 「疑うことが流行になっている」

②証の書に対する不信と疑い - 「サタンの最後の欺瞞はみ霊の証を無効にすることである」

レター 12, 1890 (「終末時代における霊の賜物」参照)

大争闘下 258 「この大欺瞞者が最も恐れていることは、われわれが彼の策略を見破ることである。」

「我々は①騒ぎと分裂を起こさなければならない。我々は②自分たちの魂のことを心配する心を破壊しなければならない。そして、お互いを非難させ、裁き、譴責するように導き、利己主義と敵意を抱くように導こう。これらの罪の故に、神は我々をその御前から追い出したのだ。だから、我々の模範に従う者は、同じ運

【注】

①人あ上 119「もしキリストに従うと称する人々が神の標準を信じるならば、それは、彼らを一致させることであろう。しかし、人間の知恵が神の清い言葉以上に高められている限り、分裂と不和は起こる。」

②大争闘下 317「人々は致命的な安心感へと急速に誘い込まれているので、神の怒りが降下して初めて目をさますのである。」

クリスチャンの奉仕 113「もし我々の目が安心して自分は心配ないと思っている人々に働きかけている墮落天使たちを見分けることができたなら、我々はそんなに安心してはられないであろう。」

大争闘下 368、369「われわれは世界歴史の最も厳粛な時代に生存している。地上のおびただしい数の人々の運命が、決定されようとしている。我々自身の将来の幸福も、他の魂の救いも、今われわれが歩いている道にかかっている。われわれは真理のみ霊によって導かれる必要がある。キリストに従う者はみな、『主よ、わたしは何をしたらよいでしょうか』と熱心にたずねるべきである。」

大争闘下 260「サタンの権力に抵抗しようとする特別の努力もなく、教会と世の中に無関心の状態がみなぎっていれば、サタンは別に気にとめないのである。というのは、彼は自分がその意のままに捕えている者たちを失う危険がないからである。ところが、人の心が永遠の事柄に向けられ、『わたしは、救われるために何をすべきでしょうか』と魂が叫ぶとき、サタンはキリストの力に抵抗し、聖霊の感化を妨害しようと動き始める。」

6 T408 「カーテンが開けられ、神の目的が分かり、間もなく世の運命が定められ、裁きが下ろうとするのが見えたら、又、あなたが自分自身の態度を見ることができたら、あなたは自分自身の魂のために他人の魂のために、恐れおののくであろう。熱心な祈りと深い心の探索が天にのぼるであろう。廊と祭壇との間で、自らの霊的盲目と背教を告白して泣くであろう。」

ヨエル書 2 章 「シオンでラッパを吹け。わが聖なる山で警報を吹きならせ。」

エゼキエル書 9：3～8 どんな人が印されるのだろうか？「憎むべきことに対して嘆き悲しむ者。」

初文 437～440 「不注意、無関心で暗黒に抵抗しようとしぬ者はふるわれる。」

国下 193-196 「(ゼカリヤ 3 章の幻) ヨシュア とみ使いに関するゼカリヤの幻は、贖罪の大いなる日の、最後の場面における神の民の経験に、特別に当てはまる。その時、残りの教会は大きな試練と苦悩に陥る。神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持っている者に対して、龍とその軍勢は激しい怒りを発する。…人々は神の律法に背いて、人間の布告に服従するように要求されるのである。」

この箇所は、日曜休業令が発表される時、神の民が印される前の特別な経験が書いてある。必読の箇所である。

ゼパニヤ書 2：1～3

「あなたがた、恥を知らぬ民よ、

共につどい、集まれ。

すなわち、もみがらのように追いやられる前に、

(法令が出る前に—英文(日曜休業令) RH1908.1.19)

主の激しい怒りがまだあなたがたに臨まない前に、

主の憤りの日がまだあなたがたに来ない前に。

すべて主の命令を行うこの地のへりくだる者よ、

主を求めよ！

正義を求めよ！

謙遜を求めよ！

そうすればあなたがたは主の怒りの日に、

あるいは隠されることがあろう。」

【注】

我々はサタンのわなを知った。彼の秘密会談を盗聴できるのは特権である。証の書は、特に細かく我々のために記録している。だからサタンの最後の大欺瞞は、証の書を無効にすることである。「この大欺瞞者が最も恐れていることは、我々が彼の策略を見破ることである。」（大争闘下 258）預言の民はそれを世人に警告しなければならない。

「大欺瞞者サタンは、贖罪の犠牲と全能の仲保者を明らかにする大真理を憎んでいる。」（大争闘下 221）「見よ、世の罪を取り除く神の子羊」と至聖所に人々の心を向けさせるのを恐れている。だから「サタンは、数えきれないほど多くの策略を考え出してわれわれの心を捕え、われわれが最もよく知っていなければならない働きそのものについて、我々に考えさせまいとしている」のである（大争闘下 221）。何故なら、そこに「完全で十分な信仰による義認」が成就するからである（大争闘下 216）。それは何を意味するか？その真理が明らかにされ、完全に受け入れられるならば、自分の力が碎かれることをサタンは知っているからである（福音宣伝者 161 参照）。

サタンは、大祭司キリストの立場と働きについて、神の民が明確に知らなければ、この時代にあって必要な信仰を働かせることも、神が彼らのために計画しておられる立場を占めることもできなくなることを知っているからである（大争闘下 222）。「それをしっかり把握する者は、神の大いなる日に立ち得るように人々を備えさせ、キリストと協力して働く」ために立ち上がり、「そして彼らの働きは成功する」ことを知っているからである。

「衰えつつある教会と、頑固な会衆に主が聖霊を注いでくださることができるよう、神の民があらゆる障害を取り除いて道をきれいにすることくらいサタンが恐れることはない。……神の御霊のために道が備えられる時、祝福が下るのである。」RH1887.3.22.

「虫に等しいヤコブ」「少数の忠実な者」たちは、やがて「かき裂かれ、撃たれ」、サタンに逃げ場のないほど訴え続けられ、激しい苦痛と最後の悔い改めを経験して、「慰めの雨」にあずかるのである。そして、「しののめのように見え、月のように美しく、太陽のように輝き、恐るべきこと、旗を立てた軍勢のよう」になって最後の戦いに突入するのである。

神は義をもってご自分の働きを終えられるのである。その時、働き人は「学歴ではなく、聖霊によって資格が与えられる。」「平凡な人々によって」、ほとんど完成なさる。「偉い人は僅かしかたずさわらない」「働き人を驚かせる方法で」「主ご自身がたづなを取っておられるかのように」「賞賛されてきた多くの星は、暗黒に追いやられ」「今は隠されている者たちがリーダーシップをとって代わり」、「山火事のような速さで働きは終わる」のである。それは主がそう言われるからである。

「わたしは自分のために、自分のためにこれを行う。どうしてわが名を汚させることができよう。わたしは、わが栄光をほかの者に与えることをしない」（イザヤ 48：11）と。

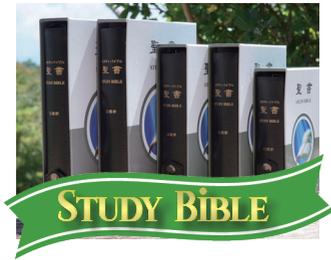
「弱い者はダビデのように強くなって」ゴリアテに対決する。サタンの三位一体・世界支配の陰謀を達成せんとする龍と獣とにせ預言者・に挑戦するのは、三天使の使命の作品、十四万四千人である。

とうてい想像もできない天上の栄光と過去の迫害の繰り返しの結合される中で、小羊と忠実な者たちは、ついに勝利するのである。

わが主は輝く雲に乗り 悪の力を打ち砕きて
真理に従う聖徒らに 栄えの報いをたもう
グローリー グローリー ハレルヤ
主の真理は勝ち進まん



もっと詳しく研究なされたい方のために...



スタディバイブル

口語訳・注解・
脚注引照付き・地図
チャート・聖句索引

¥8,000～

色はすべて黒で本革を使用

宇宙の謎、地球の謎、人生の謎に真実の解決を与えるのは聖書だけです。スタディバイブルは自分で研究できるように編集されています。

お問い合わせ、お申込みは下記の連絡先まで

サタンのわな -リバイバルシリーズ-

※頒布価格 200 円

発行 平成 24 年 1 月 16 日

発行所 サンライズミニストリー

〒 905-0428

沖縄県国頭郡今帰仁村今泊 1471

電話 0980-56-2783

FAX 0980-56-2881

Email info@sunriseministry.com

www.sunriseministry.com



リバイバル小冊子シリーズ

No. 1 安息日問答

No. 2 アピール

No. 3 装身具について

No. 4 狭き道の旅

No. 5 リバイバルと改革

No. 6 神の聖安息日の遵守

No. 7 今

No. 8 終末時代における霊の賜物

No. 9 小さな光と大きな光

No.10 預言の霊に関する指導原

No.11 サタンのわな

No.12 人類が直面している世界情勢

No.13 田舎の生活

No.14 十戒

No.15 主のぶどう園

No.16 背教のアルファ

No.17 終わりの時に備えよ

No.18 どのようにして安息日を守るか

No.19 キリスト論

No.20 救いの確証

No.21 もうひとつの箱船

